

レセプトの一元管理で
適切な診療が可能に

4月からスタートする
K-MIX R BASICの最大
の特長は、健康保険組合や市
町村などの保険者が持つレセ
プトを基本医療情報として活
用することです。レセプトとは、
患者が医療機関で健康保険を
使って受診した時に、医療機関が



自己負担分以外の報酬を保険者に請求する明細書で、受診歴や投薬などの情報を網羅的に見ることができます。そのデータから、病名、処方内容、投薬、処置、手術などの限定的なデータを抽出、加工し、共有データベースで一元管理します。

本システムに参加している医療機関、薬局などは、無料で閲覧できます。これまで患者の記憶に頼っていた問診による情報を見直すことで、患者の記憶にかかる時間による副作用が減ります。また、複数の病院にかかる患者が、一見関係ないと思っていた病状も、医学的見地から病状を的確に把握し、診療に結びつけることが可能になります。

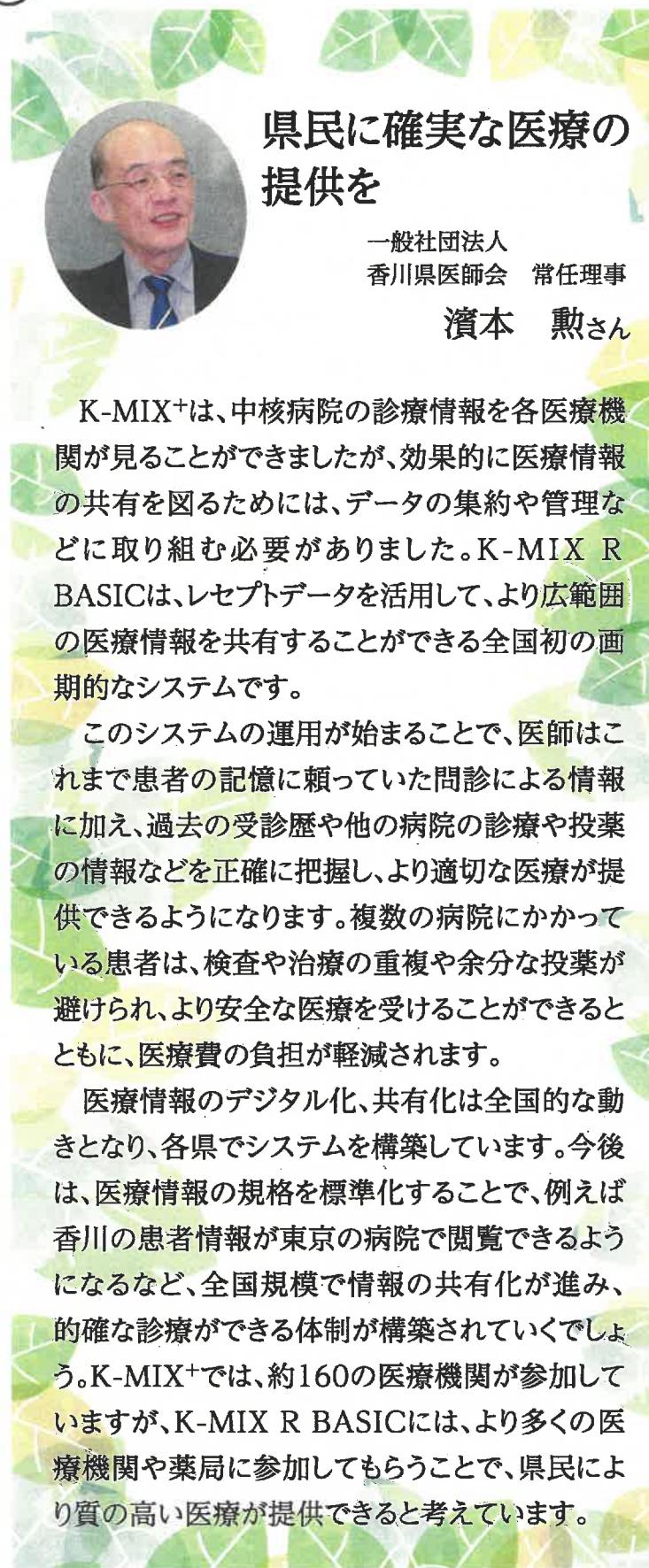


大規模な災害が発生した時に、避難してきた方の病名や治療内容を、医師がPC端末などで閲覧できるため、インスリンの注射や人工透析など、命に関わる治療の継続が必要な方を把握し、緊急時でも的確に処置することができます。新型コロナウイルス感染症の重症化に影響のある病名や診療年月日が記録されたデータが示されるので、新型コロナウイルス感染症を疑う患者の基礎疾患を迅速に把握し、適切な対応を取ることも可能です。

災害やコロナ対策にも有効



2021年4月から新たな診療支援システム「K-MIX R BASIC」の運用を開始します。K-MIX R BASICは、全国で初めてレセプト(診療報酬明細書)を活用し、受診歴や投薬など過去の診療情報を臨床の現場で閲覧することができる画期的なシステムです。かかりつけ医と中核病院、薬局がレセプト情報を共有することで、患者は同じ説明や検査を何度も受けずに済み、スムーズで適切な医療の提供につながります。県は、2003年に県内全域を対象とした遠隔医療ネットワーク「K-MIX」の運用を開始して以降、ITを活用した医療提供体制を構築してきました。新型コロナウイルスのまん延が長期化する中、患者の情報を迅速かつ正確に把握するために、医療のデジタル化を進めています。



県民に確実な医療の 提供を

一般社団法人
香川県医師会 常任理事
濱本 勲さん

K-MIX⁺は、中核病院の診療情報を各医療機関が見ることができましたが、効果的に医療情報の共有を図るためにデータの集約や管理などに取り組む必要がありました。K-MIX R BASICは、レセプトデータを活用して、より広範囲の医療情報を共有することができる全国初の画期的なシステムです。

このシステムの運用が始まることで、医師はこれまで患者の記憶に頼っていた問診による情報に加え、過去の受診歴や他の病院の診療や投薬の情報などを正確に把握し、より適切な医療が提供できるようになります。複数の病院にかかるている患者は、検査や治療の重複や余分な投薬が避けられ、より安全な医療を受けることができるとともに、医療費の負担が軽減されます。

医療情報のデジタル化、共有化は全国的な動きとなり、各県でシステムを構築しています。今後は、医療情報の規格を標準化することで、例えば香川の患者情報が東京の病院で閲覧できるようになるなど、全国規模で情報の共有化が進み、的確な診療ができる体制が構築されていくでしょう。K-MIX⁺では、約160の医療機関が参加していますが、K-MIX R BASICには、より多くの医療機関や薬局に参加してもらうことで、県民により質の高い医療が提供できると考えています。

K-MIX R BASICへの参加については、K-MIX Rのホームページをご覧ください。

K-MIX R <https://kmix-r.jp/>



K-MIX R BASICカード

次回から健康保険証と一緒に携帯してください。2021年8月からは、マイナンバーカードでも使うことができる予定です。

デジタル医療先進県として

デジタル医療先進県として
国のデータヘルス改革プラ
ンに基づき、県は2003年に
全国初の全県的な医療情報
ネットワーク「K-MIX」の
運用を開始し、情報通信技術を
活用した遠隔医療ネットワー
クを構築しました。2014年
からはK-MIX^{プラス}として、中
核病院に通院している患者の

診療情報を病院間で共有し、医療に役立てる機能を追加します。

電図などを自宅から遠隔で島外の医療機関に送信して診断するオンライン診療が始まっています。

電図などを自宅から遠隔で島外の医療機関に送信して診断するオンライン診療が始まっています。

県は、デジタル医療先進県として、K-MIX R BASICを活用し、県民が安心して医療を受けられる体制を構築していくきます。

Q 自分のいない時に、医師が自分のレセプトを見ることはできますか。

A 医師の認証と、患者が提示するK-MIX R BASICカードまたはマイナンバーカードがそろわないと閲覧できません。ただし、その日に閲覧した情報は、診療に活用する目的から、翌日の午前5時まで再閲覧できます。

Q 県外で受けた治療や投薬の内容は分かりますか。また、県外の医療機関で自分のレセプトを見ることはできますか。

A 保険者が変わっていなければ、県内の医療機関では県外で受けた診療内容も見ることができます。K-MIX R BASICは、県が全国に先駆けて始めるサービスであるため、現時点では県外の医療機関で見ることはできません。

データの閲覧は、患者と医師双方の合意が必要です。患者は医療機関で配布されるQ Rコード付きの「K - M I X R BASICカード」やマイナンバーカードを提示して同意をし、医師はIDとパスワードを用いて認証を行うことで患者情報を閲覧できるようになります。レセプトデータと個人とを結び付ける情報を別の場所に保存するため、万が一どちら

無料で簡単に登録可能

レセプトデータを医師に見てもらうためには、最初に登録が必要です。登録は無料で、K-MIX R BASICに参加している最寄りの医療機関に健康保健証を持参すると、その場でK-MIX R BASIC Cカードを発行してくれます。

Q今までの医療情報ネットワーク「K-MIX⁺」との違いは。

A K-MIX⁺は、県内16の中核病院の詳細な診療情報、各医療機関で見ることができます。中核病院以外の医療機関の情報を見ることができませんでした。K-MIX R BASICは、参加している医療機関であれば無料でレセプトデータを閲覧でき、より広範囲で情報を見ることができます。



Q 健康保険証が変わっても、情報を
見ることはできますか？

A 異動先の保険者がK-MIX R BASICに参加していれば、見ることができます。保険証が変わったび、お手持ちのカードに新しい保険者が持つ情報を見直していただく必要があります。

Q お薬手帳としても使えますか。

A レセプトデータには、処方内容も含まれます。システム開始時は過去1年間の情報が閲覧でき、年月を重ねるごとに蓄積されるのでお薬手帳としても使うことができます。なお、薬のデータが反映されるまでに2カ月ほどの時間差があります。直近の処方内容は閲覧できません。